

教育課程の編成と運営の 視点から —先導的取組の成果と今後の課題—

国立教育政策研究所平成27年度教育研究公開シンポジウム
(平成27年8月24日)

大阪体育大学教育学部
工藤 文三

1 教育課程の編成実施における 一貫性とは

(1) 教育課程編成の諸条件

- ア 教育目的や目標をどう設定するか
- イ 教育目標を達成するため、児童生徒の発達に応じて教育内容をどう組織するか(分科と総合、系統性と一貫性、知識と経験、内容と方法、履修方法等)
- ウ 授業時数の設定をどうするか
- エ 学習評価と教育指導の改善の仕組みの工夫
- オ 6-3年の教育課程の基準の踏まえ方
- カ 教育課程の運営と改善の仕組み

(2) 教育課程の編成実施における一貫性とは

- ア 目標や教育の指針が9年間の教育指導を貫いて設定されること(義務教育の目標の実現)
- イ 児童生徒の発達特性や学習の適性を踏まえた目標、内容、方法の組織編成
- ウ 児童生徒の学習状況に応じて、適切な指導が継続されること
- エ 課程の区分ごとに学習の修得が達成され、次に引き継がれること

(3) 一貫性を重視した具体的な姿

ア 教育目標を教育課程の編成に具体化

イ 各学年、各区分の指導計画のまとまりと、他学年や他の区分の指導計画との関連、接続、系統性の確保

ウ 指導方法や学習活動等の連続性や発展性

エ 児童生徒の学習状況を踏まえた指導の継続性

オ 教育課程の特質に応じた指導体制の工夫、教育課程の運営改善の在り方

2 先導的取組が生み出したもの

- (1) 取組の背景や事情、ねらいは多様(中学校生活への適応、発達の視点、学力の向上、適正配置等々)
- (2) 9年間を見通した様々な取組の創出
 - ア 一貫した教育課程の編成と実施
 - イ 学年段階の区分の設定と意味付け、活用
 - ウ 指導計画や指導体制の工夫
 - エ 児童生徒の学習環境の醸成等

3 一貫した教育課程への取組

- 1 教科等ごとの9年間を見通した内容の系統性、関連の整理
 - ア 6年間、3年間のまとまりから9年間のまとまりへ

- 2 学年段階の区分の設定と、区分ごとのねらい、指導の重点等の整理
 - ア 区分ごとの教育活動のねらいと指導の重点の明確化

3 指導計画作成の工夫

ア 区分ごとの指導計画作成

イ 他の学年との関連・接続の整理と位置付け

ウ 重点化、精選

エ 重視する目標との関連を明示

4 教育課程の実施運営の工夫

(1) 教科担任制の実施

ア 中学校における指導体制を小学校段階で実施

イ 教科としてのより専門的な指導・学習が可能

ウ 中学校における授業への理解促進

(2) 乗り入れ授業の実施

ア 児童生徒理解の促進

イ 教科の指導内容や方法の理解促進

(3) 時間割の工夫

ア 45分授業と50分授業の調整

イ 中休み時間で調整したり、学年段階区分に応じて設定を工夫したりする工夫

(4) 評価の工夫

ア 小学校高学年における定期テスト

イ 小学校高学年における評定の見直し

(5) 授業スタイルの統一

(6) 児童生徒の9年間を見通した学習習慣の形成→学習の計画や振り返り、家庭学習時間の目安を設定

5 その他の特色ある取組

- (1) 学校行事、児童生徒の多彩な交流活動
- (2) 児童生徒の学習や生活の状況の引き継ぎ
- (3) 学年段階の区分に応じた行事運営
- (4) 継続的な研究公開

6 学年段階の区分設定と活用

- (1) 多様な区分設定の意味付け
 - ア 学習や生活面での接続の円滑化
 - イ 学習状況の改善
 - ウ 発達の特性への対応
 - エ 目標とする能力の系統的な伸長

(2) 学年段階の区分の活用

ア 目標の重点化、指導の重点化

イ 区分に応じた指導体制（教科担任制、
乗り入れ授業）の実施

ウ 区分に応じた学習活動、集団活動等
の設定

7 今後の課題

- (1) 接続の円滑化からより一貫した教育の推進へ
- (2) 6－3年の課程と学年段階の区別の関係の整理
- (3) 指導体制の安定的・継続的な展開
- (4) 指導と評価の一体化を通じた児童生徒の学習状況の改善

-
- (5) 学校規模を踏まえた教育課程の運営改善
 - (6) 児童生徒理解、きめ細かな学習状況の把握を踏まえた指導の継続と確かな学力の育成
 - (7) 教科等横断的能力、汎用的能力の育成の在り方についての実践的研究